様式第５号

平成30年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	63	学 校 名	県立袋井高等学校	記 載 者	校長　宮本宗明

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
ア	「志」を育てるキャリア教育、生徒の要望に応える補講、全校体制での進路指導を目指す。	「進路及び将来の職業選択に関するキャリア教育が推進されている」と答える教職員が 80%以上。	C	C	・進学、就職共に自分の道（文理、今やその統合も見えてきている）を考えるヒントを、いろいろな授業で伝えるようシステム化を図ってほしい。 ・自分のやりたい事を見つけられるように多くの選択肢を示してほしい。
イ	初期指導の充実、教科で一致した予習励行の工夫による家庭学習習慣の確立を目指す。	平日の平均学習時間：１、２年生平日120分上、３年生４時間以上 休日の平均学習時間：１年生150分以上、２年生180分以上、３年生６時間以上。	A	A	・時間のトータルよりもその中身の分析をすべきである。 ・全体目標は達成しているが、過年度より減少傾向にある点は注意が必要である。 ・集中力のある時間を作ることが出来るようにしたい。
ウ	**相互授業参観等を契機に、不断の授業改善（アクティブ・ラーニング（型）、ICT活用を含む。）を図り、学力向上を目指す。**	**「学力がついてきている」と答える生徒が80%以上。**	B	B	・学力評価との連動が必要。 ・アクティブラーニングは生徒と教員に評価の乖離が大きい。 ・先生方はファシリテーターであってほしい。
エ	部活動、特別活動でのきめ細かな支援により、生徒の主体性、自立心の涵養を目指す。	「2時間以上の家庭学習時間を確保して部活動との両立をしている」と答える生徒が70%以上。	B	B	・各部活でどのような人間力と社会性が身につくのか、分析が必要か。 ・両立できない生徒31.9%を減少させることも重要なことではないか。 ・両立とは結果ではなく本人のモチベーションが次に繋がることである。
オ	きれいな教室・廊下、美しい身なり、気持ちの良い挨拶・言葉遣い、大きな声での校歌斉唱を目指す。	「校内外において、袋井高生として自覚ある言動ができた」と答える生徒が90%以上。	B	B	・身の回りから社会まで、保全、維持を図るという倫理観、自分を律すること、精神の健全を維持、前向きに取り組む態度の育成を。 ・校歌斉唱、明るい挨拶等の生徒自身の高評価は評価できる。

カ	時代の要請に応えるため、読書指導の充実及び国際交流・ボランティア活動への参加者増を目指す。	「福祉活動、ボランティア活動に将来参加したい」と答える生徒 50%以上。	A	A	・社会貢献で何を学べたか、得られたかを把握してほしい。
キ	施設・設備・教具・教材の充実、防災・危機管理意識の高揚を目指す。	「職員間に法令順守の意識が浸透している」と答える教職員が 90%以上。	B	B	・コンプライアンス、危機管理への全学体制、南海トラフ地震など防災への日常的意識を改めて高めることが必要である。 ・法令順守（コンプライアンス）の意識は 100%を目指すべきである。
ク	校務の効率化と適正化を図り、教職員の心身の健康を維持・増進する。	「仕事の効率化と業務の見直しが図られ、心身の負担が軽減された」と答える教職員が 60%以上。	D	D	・働き方の改革、ストレスチェックも有効である。ＩＴ活用での業務整理と効率化、１日での仕事の割り振りをデータ化し、分析・検証できるとよい。 ・教職員の時間外勤務の時間差がありすぎる。 ・外部の力を借りることも大切である。
ケ	保護者の教育活動への参加促進と意欲的な広報活動の展開を目指す。	「学校は広報活動に力を入れている」と答える保護者が 70%以上。	A	A	・保護者にどう伝えているのか。小学校のように連絡帳の活用も。生徒のラーニングポートフォリオ（学びのノート）をオンラインで保護者にも見れるようにしてもよい。 ・校長先生の経営理念とそれに呼応する先生の姿勢、生徒の成功、それが伝わればよい。
コ	共通理解に基づくぶれない指導、特進クラスの指導の確立、新入試を見据えた変革を目指す。	「各分掌が連携し、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行っている」と答える教職員 80%以上。	C	C	・変革の一体感と情報共有をしてほしい。分掌のローテーションと多様化を身に付ける意味で必要かもしれない。 ・教職員の連携、横のつながりを強化する。 ・多種多様な生き方がこれからの世の中、社会の中で何の役割を持つかを教えてほしい。